

## 平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

### 【めざす学校像】

全校一致のもと、誠実でやさしさと活力あふれる人間を形成する。

- 1 一人ひとりの個性・才能を生かし、知力・体力を育成する。
- 2 自ら考え、責任ある行動がとれる人間を育成する。
- 3 誠実で品性の高い教養のある人間を育成する。
- 4 男女・民族・ことばの違いを越え、互いの人権を尊重し、平和を願う人間を育成する。
- 5 自然に親しみ、自然とともに生きることが大切だと思える心を育成する。

### 2 中期的目標

#### 1 確かな学力の育成

(1) 新学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に、ICT を活用して取り組む。

ア 授業シラスを基に、授業アンケートを効果的に活用し、本校の生徒実態を踏まえた授業改善に組織的・計画的に取り組む。

※授業アンケートの総合評価の肯定評価(平成 26 年度:87%)を毎年 5%引き上げ、平成 29 年度末には 95%以上をめざす。

※学校評価アンケート「多面的評価」の肯定評価(平成 26 年度:75%)を毎年 5%引き上げ、平成 29 年度末には 90%以上をめざす。

※学校評価アンケート「施設・設備等の学習環境」の肯定評価(平成 26 年度:77%)を毎年 5%引き上げ、平成 29 年度末には 95%以上をめざす。

※ICT を活用した授業を実施した教員の割合(平成 26 年度:40%)を平成 29 年度末には 90%以上をめざす。

(2) 教員研修と公開授業(研究授業)の充実を図る。

ア アクティブラーニング型の公開授業を年 1 回は実施し、それ以降は複数化を図る。

※教職員による学校評価の校内研修に関する肯定評価を平成 29 年度には 80%にする。

※教科を超えた公開授業(研究授業)の参加者数(平成 26 年度:全体の 40%)を毎年 10%引き上げ、平成 29 年度には 70%にする。

イ 効果的なオリジナルテキスト教材の教科・科目を拡充する。

(3) 自学自習の徹底を図る。

ア 教科担当、部顧問の連携を密にし、個々の生徒の学習到達度を共有し、補習や講習と部活をスムーズに連動させて学力を向上させる。

イ 放課後学習会、長期休業中の講習会などの内容と規模を充実させ、進路実現に向けた指導を行う。

※学校評価アンケート「学習会・講習会」の肯定評価(平成 26 年度:78%)を平成 29 年度末には 90%以上をめざす。

#### 2 夢と志を持つ生徒の育成に向けた指導計画の確立

(1) 「総合的な学習の時間」と LHR 等を有機的に連携させ、志学、キャリア教育、人権教育を総合的に行うことのできる指導計画を確立する。

ア 総合的な学習の担当が軸となり、学年・進路指導部と連携し、3 年間を見通した計画への改善に取り組む。

※学校評価アンケート「進路指導」の肯定評価の肯定評価(平成 26 年度:83%)を毎年 5%引き上げ、平成 29 年度末には 90%以上をめざす。

イ 外部講師を総合的な学習の時間や LHR において積極的に招くとともに、生徒による振り返り・発表の機会を増やす。

※学校評価アンケート「講演・体験授業などの機会が多い」の肯定評価(平成 26 年度:84%)を平成 29 年度末には 90%以上をめざす。

※難関大学合格者(平成 26 年度:国公立大学合格者数 148 名、東大、京大、阪大、神戸大の合格者数合計 30 名)を平成 29 年度までに国公立大学合格者数 180 名以上、東大、京大、阪大、神戸大の合格者数合計 50 名以上(京大合格者数 10 名以上)に引きあげる。

(2) 英語運用能力を向上させ、グローバル社会に貢献できる人材を育成する。

ア 放課後の校内留学(英会話)への参加を促し、英語に対する学習意欲を増加させる。

イ おおさかグローバル塾への応募者数・合格者数を学内掲示や説明会により増やす。

ウ 語学研修の機会を拡大し、生徒の英語力を向上させ、多様性受容力を高める。

※海外語学研修[英国オックスフォード]の希望者(平成 26 年度:21 人)を毎年 10 人引き上げ、平成 29 年度には 50 人にする。

※留学に関する意識調査(文科省)の「留学したい(国際社会への関心)」の割合(平成 24 年度:65%)を、平成 26 年度は 70%以上に、平成 29 年度には 75%以上にする。

(3) 地域関係諸機関との連携、高大連携について協議し、推進する。

ア 大阪大学 IRIS(国際教育交流センター)と提携し、留学生との交流を通じて実践的な英語力の向上を図る。

イ 立命館大学との提携による高大連携推進協議会による事業を開始する。

ウ 保護者、地域関係者に対する生徒校内発表の場への参加呼びかけを拡大するなど地域との交流を図る。

※学校評価アンケート「生徒と保護者と地域の人たちとの交流」の肯定評価(平成 26 年度:42%)を毎年 5%以上引き上げ、平成 29 年度には 60%以上にする。

#### 3 安全・安心な学校のための体制の確立

(1) 保護者や関係機関との連携を強化するとともに、校内の教育相談体制を充実させる。

※学校評価アンケート「教育相談」の肯定評価(平成 26 年度:76%)を毎年 10%以上引き上げ、平成 29 年度には 90%以上にする。

(2) 保護者に対して積極的かつ効果的な広報活動を行う。

ア 学校行事の HP での紹介、学年だよりを充実させる。

(3) 生徒理解の促進と安心・安全な学校づくりのための体制の確立をめざす。

ア 学校保健委員会・安全衛生委員会を定例化し充実をはかる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校関係者からの評価】

学校評価アンケートの結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校関係者評価[平成 28 年 5 月 14 日・6 月 10 日]
<p>教職員による回答(82/90 回収率 91% )</p> <p><b>【教育目標・教育方針等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と同様「他の学校にない特色ある教育活動を展開している」に対して否定的な評価が高いことについては、私学としての関西大倉の取組みの独自性をさらに打ち出す必要がある。</li> </ul> <p><b>【進路指導・生徒指導等(教職員関係)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「教員は、生徒が相談したときには、親身に応じている」、「教員は、生徒の教育に熱心に取り組んでいる」を高く評価しており、保護者にも支持されている。「進路にかかわる連絡や情報をきめ細かく提供している」についての、保護者との評価の差違に対しては、進路説明会の内容の工夫が必要である。</li> <li>・「生徒が意欲的に取り組むような教育課程の工夫」については、次年度以降、里山を活用した環境教育の具体的検討や ICT 教育やグローバル人材の育成のための取り組みを早急に充実する必要がある。またキャリア教育を軸とした進路学習のさらなる推進や各行事への保護者への自由参加などの機会をより増やす必要がある。</li> </ul> <p><b>【学校運営】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「校外学習、宿泊行事などの中で、生徒が主体的に取り組む活動が多い」と回答した教職員が 48%にとどまっている。生徒の自主的活動の向上に向けて、全教職員によるさらなる創意工夫が必要である。</li> <li>・企業探求など近隣企業との提携は進んだものの、「地域との交流」の肯定的評価は 26%にとどまり、より積極的な取り組みが必要である。</li> </ul> <p><b>【施設・安全】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「施設・設備」の拡充に対する満足度は、第 2 情報教室の増設、全教室に電子黒板機能付きのプロジェクターが設置されるなど、ICT 環境が改善され、63%に向上した。</li> <li>・残念ながら保護者による学校評価アンケートの回収率が低迷したままである。次年度は郵送でのやり取りなど回収方法の改善を図る必要がある。</li> </ul> <p>保護者による回答 1535 有効回答数 544(1 年 236・2 年 167・3 年 141 回収率 35% 昨年度 38%)</p> <p>「よく当てはまる」と「ほぼ当てはまる」という肯定な意見が 90%を超える項目が 35 項目中 5 項目あった。中でも「教育目標・教育方針・教育指導に共感できる」と評価した保護者は 94%で、続く「誠実でやさしさと活力あふれる生徒を育てようとしている」が 88%の支持を得ていることから、本校の建学の精神が活かされていると思われる。また、保護者への連絡の点も高評価をえているところから、引き続き迅速かつ丁寧な対応を心がけたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一方、否定的な数値が比較的高い項目としては、「他の学校にない特色ある教育活動を展開している」、「進路にかかわる連絡や情報をきめ細かく提供している」、「生徒会や委員会活動は活発である」等があげられている。「生徒が意欲的に取り組む教育課程」・「多面的な評価」についても、高評価とは言えない状況である。各教科においてポートフォリオ評価に加えパフォーマンス評価のルーブリック(記述語からなる評価基準表)の策定が必要である。また「生徒と保護者と地域の人たちが交流する機会が設けられている」は昨年同様、50%を超える否定的な評価が続いており、早急な対策が必要である。</li> </ul>	<p><b>【教育目標・教育方針等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方針・教育指導についてはアンケート調査の高評価によく表れていると思います。校長先生以下、先生方が取り組んでおられる教育を今後も進めていっていただきたいです。</li> <li>・ホームステイ・語学研修以外の国際交流が無いように思います。ホームステイ・語学研修に行かなくても国際交流できるような行事を考えて欲しいです。</li> <li>・関倉の卒業生による家庭教師を斡旋して欲しいです。</li> <li>・関倉での学校生活が楽しかったと子供たちが思える良い環境を作ってもらっていると思います。</li> <li>・力のある生徒がたくさん入学してくる高校です。その生徒たちの期待をもち、さらにひきあげる指導を期待します。その高い指導力が特色となればと思います。</li> <li>・文武両道を目指す素晴らしい学校だと思います。</li> <li>・「文武両道」のご指導を頂いてありがたいと思っております。両立の為の指導や、部活学生向けの勉強会が別途あればと思います。部活を引退した生徒が勉強だけに切り替える為の指導又試合等で遅れている勉強を少しでもサポートして頂ければ有難いです。</li> <li>・ルーブリック評価作成により生徒一人ひとりが自身の成長の度合いを知ることが出来るという事はとても重要で学習への意欲や取り組み方にもよい影響があるのではないかと思います。</li> <li>・アクティブラーニング型の授業への興味へと繋がっていけば授業がより充実したものになるのではないかと実現を期待します。</li> <li>・担当の先生が変わった場合、前任者からの引継ぎが十分でないように思います。</li> </ul> <p><b>【進路指導・生徒指導等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学受験に必要な情報を、適切な時期に提供していただければと思います。</li> <li>・大学受験ギリギリまで先生方にご指導頂き、感謝しております。</li> <li>・放課後学習会や講習会も充実させ、互いに切磋琢磨できる環境になることを期待します。</li> <li>・日本の伝統文化を学ぶ機会を作っていることは、いい取り組みだと思います。</li> <li>・男子学生の割合が多くても、家庭科の授業で裁縫や調理学習をすることは、とても良いことだと思います。</li> <li>・放課後にも生徒が気軽に先生に質問できています。</li> <li>・卒業生に受験の体験談や大学のことなどを紹介して頂く機会を作ってはどうかと思います。</li> <li>・校内できちんと挨拶してくれる生徒が多いのですが、こちらから挨拶しても返事の無い生徒が見受けられます。</li> <li>・「きちんとした学校」という印象そのままに、礼儀正しく挨拶もきちんとしてくれて、モラルの高さを感じます。</li> <li>・衣服や生活の乱れを細かく注意して頂いています。</li> </ul> <p><b>【学校運営】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会・地域との関わりが持てるように、里山維持の活動に生徒や保護者を参加させてはいかがかと思います。</li> <li>・保護者へのプリント配布の際、学校 HP でも内容を確認できるようにして欲しい。学校評価アンケートも HP 上で回答できるようにすると回収率が上がるのではないのでしょうか？</li> <li>・「地域との交流」に関し、クラブ単位などでも地域の行事に参加するなど交流できないでしょうか。</li> <li>・サカスや HP に記載されているクラブが偏っているように思います。多くのクラブの活動を記事にして欲しい。</li> <li>・バスの運転手さんによってバスの乗り方などのルールにばらつきがあり、生徒が戸惑うことが多いようです。</li> <li>・PTA 役員について、3 年間通しての実行委員でなく、文化祭等の行事には、学級委員又それ以外の方々もお手伝いして頂き協力し合あって横の繋がりを持つ。それによって情報交換ができ親も安心すると思います。参観や懇談会、総会、学校行事への保護者の参加が年々減りつつあることに対して、考えて頂きたいです。</li> </ul> <p><b>【施設・安全】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT 環境の向上やグラウンドの照明設置など、改善への取り組みが感じられます。</li> <li>・クラブ活動の試合、遠征に使用できるバスなどの移動手段を充実させて欲しい。</li> <li>・体育館に設置された製氷機を緊急時に速やかに使用できるように、鍵の管理場所を明確にして欲しいです。</li> </ul>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 確かな学力の育成</p>	<p>(1)「わかる授業」をめざした授業改善 ア 授業アンケートの効果的活用 イ ICT を活用した授業について研究と実践。 (2)教員研修充実 ウ アクティブラーニング型授業の開発 エ オリジナルテキスト教材の拡充 (3)自学自習の徹底 オ 放課後学習会、講習会などの充実</p>	<p>ア・本校の生徒実態を踏まえ、3年間を見通した学習到達目標の点検を行う。 ・小論文、面接、集団討論、プレゼンテーションなどに対するパフォーマンス評価の研究を行う。 イ・中学・高校1・2年生棟各教室・芸術教室に電子黒板機能付きプロジェクターを設置して、ICTを活用した授業の研究と実践を進める。 ・第二情報教室を増設してICT活用を全教科に広げる。 ウ・他校の実践的なアクティブラーニング型の授業を見学し、その手法を学び教科活動に取り入れていく。アクティブラーニングに関する委員会を設置する。 エ・地歴・公民科をはじめとしてオリジナル教材の共有化を進める。プリント教材を冊子として保管・整理の利便性につとめる。 オ・放課後学習会を1学期中間考査終了後、生徒の要望を踏まえて拡充する。 ・大学別・CTレベルなど受験校に対応した講座を細分化する。</p>	<p>ア・生徒授業アンケートの肯定評価を平成27年度には80%以上 ・学校評価「多面的評価」の肯定評価80%以上 イ・ICTを活用した教員の割合を60%以上 ・学校評価「施設・設備等の学習環境」の肯定評価を平成27年度には70%以上 ウ・教職員による学校評価の「校内研修」に関する肯定評価を平成27年度には70%以上 エ・地歴・公民科・英語科(高3授業)でオリジナル冊子を作成 オ・学校評価アンケート「学習会や講習会」の肯定評価を平成27年度には80%以上 ・高校1年時に英語・数学・国語を中心に基礎標準の学習会を開設 ・京都大学の二次対策講座を設定</p>	<p>ア・授業アンケートの総合評価の肯定評価86%(◎) 次年度は90%以上をめざす。次年度は、7月・12月の年2回のアンケートを実施して改善の度合いをより細かく確認する。 ・学校評価「多面的評価」の肯定評価75%(△) イ・ICTを活用した授業を実施した教員の割合67%(◎) 次年度は80%以上をめざす。全教室に設置された電子黒板機能付きプロジェクターの使用状況をすべての教員が共有できる環境を整える。 ・学校評価「施設・設備等の学習環境」の肯定評価82%(◎) ウ・アクティブラーニング型の公開授業実施(8月) 教職員42名参加(◎) ・他校のアクティブラーニング型の公開授業・研修会に参加 教職員16名参加(○) アクティブラーニングに関する委員会を時間内会議とし各教科の意見交換を図る。 ・教職員「校内研修」に関する肯定評価60%(△) 次年度は70%をめざす。 エ・地歴・公民科の共通した冊子には至らなかった。(△) 次年度は共有化を推進する。他教科においてもオリジナル教材の共有化を進めながらデジタル教材の開発に取り組みたい。 オ・学校評価アンケート「学習会や講習会」の肯定評価78%(○) ・開設時期が二学期以降となった(△) 次年度は、教員体制に配慮して1学期中間以降の開設をめざす。 ・理科・社会において京都大学の二次対策が十分にできなかった(×) 次年度は直前ではなく、二学期以降の授業の中での取り組みを始める。</p>

<p>2 夢と志を持つ生徒の育成に向けた指導計画の確立</p>	<p>(1) 志学、キャリア教育、人権教育を総合して行う指導計画の確立 ア 「総合的な学習の時間」と LHR 等の連携 イ 外部講師の積極的招聘 ウ 放課後の校内留学(英会話)への参加促進 エ 語学研修の機会の拡大 (3) 地域関係諸機関との連携推進(高大連携) オ 近隣の大学との高大提携 カ 生徒の自主活動を通して地域との交流</p>	<p>ア・総合的な学習の担当が軸となり、学年・進路指導部と連携し、3年間を見通した計画への改善に取り組む。 ・情報の授業と総合的な学習の時間を融合させた企業探求プログラムを構築する。 ・毎月の進路志望調査と個人面談により、高い志を維持する。進路志望に変更があった場合、時期を空けずに個人面談を行う。 イ・関倉版「学問体感(国公立大学教員による出前授業)」に関して、事前に生徒から希望アンケートをとり授業内容の充実を図る。 ウ・放課後の校内留学の開催曜日を増やし生徒が参加しやすい環境を整備する。 ・TOEFLiBT・実用英語技能検定試験のスコア・資格の取得に向けての対策を講じる。 エ・語学研修の機会を拡大し、事前・事後学習の充実を図りながら生徒の英語力を向上させ、多様性受容力を高める。 ・文科省主催のビビッド!留学 JAPAN を体験した生徒の校内説明会を開催する。 ・おおさかグローバル塾への合格者/出願者数を学内掲示や説明会により増やす。 ・地元ロータリークラブや各種留学機関と連携して、短期留学生の受け入れを検討する。 オ・大阪大学 IRIS(国際教育交流センター)と提携し、高校1年生次の総合学習での「日本文化の紹介」の留学生との交流を通じて実践的な英語力の向上を図る。 ・大阪大学 NP0 アベックの説明会における体験談に触れることでグローバルリーダーに必要な素養として豊かな感性と教養を身につけさせる。 ・立命館大学との提携による高大連携推進協議会による事業を開始する。 ・教育基金の支援対象として APU キャンパス「異文化交流を体験しよう」(5月1泊2日)への参加を呼びかける。 カ・クラブ活動を通じ地域との交流を深める。 吹奏楽部 茨木特別養護老人ホーム演奏会(8月) 和太鼓部 茨木里山まつり(5月)、東村秋祭り(10月)、茨木市農業祭(11月) ダンス部 箕面まつり(7月) ソフトテニス部 ルーキーズカップ(12月)・萩村杯(3月)など中学生大会主催・運営 サッカー部 阪神サマーサッカーコンテスト(8月)・茨木・島本中高交流フェスティバル(10月)開催 ・古典芸能鑑賞会、情報プレゼン発表会、学園祭、体育祭などの生徒校内発表の場への保護者、地域関係者への参加呼びかけを拡大する。 ・新入生オリエンテーション(4月)に生徒会主催による文化部祭、運動部ツアーの内容を充実させる。</p>	<p>ア・学校評価アンケート「体験授業や進路講演などの学習機会」の肯定評価を平成27年度には80%以上 ・大阪府を中心とした14企業と共同した探求的課題に取り組み(外部)発表の場を設ける。 ・学校評価アンケート「進路指導」の肯定評価を平成27年度には80%以上 イ・平成27年度「学問体感」参加生徒を年間500名以上 ・国公立大学合格者数を平成27年度には国公立大学合格者数170名以上、東大・京大・阪大・神戸大40名以上(京大5名以上) ウ・放課後校内留学の参加者数を平成27年度には40人 ・平成27年度には TOEFLiBT のスコア60取得5人/76人以上 ・実用英語技能検定試験の各学年での準2級および2級の合格率を平成27年度には70% エ・ビビッド!留学 JAPAN への出願者数を5人以上 ・おおさかグローバル塾への平成27年度には合格者4/出願者数5人 ・海外語学研修[英国オックスフォード]の希望者を平成27年度には20人以上 ・留学に関する意識調査(文科省)の「留学したい(国際社会への関心)」の割合を、平成27年度は70%以上 オ・アベックの説明会を平成27年度中に最低1回の開催 ・立命館大学 APU「異文化交流体験」(5月1泊2日)に最低10名参加 ・京都大学霊長類研究所との共同研究に参加 カ・学校評価アンケート「生徒と保護者と地域の人たちとの交流」の肯定評価を平成27年度には40%以上</p>	<p>ア・学校評価アンケート「体験授業や進路講演などの学習機会」の肯定評価84%(◎) 次年度はさらに外部講師の講演など機会を増やし肯定評価85%以上をめざす。 ・学校評価アンケート「進路指導」の肯定評価83%(○) 次年度は肯定評価90%以上をめざし維持する。 ・1月に企業別プレゼン、3月に校内での全体発表会、グランフロント大阪カフェラベで外部発表の実施。産経新聞・ABCニュース等にも取上げられ好評であった(◎) 次年度も企業数を16企業として継続する。 イ・平成27年度参加生徒は487名にとどまった。(△) 次年度は広報の機会を増やし年間500名以上の参加をめざす。 ・国公立大学合格者数は148名。(△) 難関国公立大(東京阪神)の合格者数30名(△) 次年度は京都大学合格者5名以上をめざす。 ウ・放課後校内留学の参加者数46人(○) ・TOEFLiBT60取得1人/76人以上(△) ・実用英語技能検定試験の各学年での準2級および2級の合格率67%(△) 次年度は放課後の対策講座を充実させ、70%をめざす。 エ・文科省主催のビビッド!留学 JAPAN 説明会・業者説明会(1月)に参加。体験生徒の校内説明会2回(11月・12月)実施(参加生徒17名)。出願者数8人(◎) ・おおさかグローバル塾への合格者4/出願者数5人(◎) ・海外語学研修[英国オックスフォード]には21人参加(○) ・「留学したい(国際社会への関心)」の割合を平成27年度は58%(△) 次年度は留学の説明会を実施し70%以上をめざす。 オ・総合学習「異文化交流(日本文化の紹介)」を拡充する。 ・阪大生アベックの説明会未開催(×) 次年度に向けて校内掲示や説明会を拡充する。 ・立命館大学との調整がつかず未実施(×) ・京都大学霊長類研究所との共同研究に4名参加(◎) 次年度も引き続きに参画する。 カ・学校評価アンケート「生徒と保護者と地域の人たちとの交流」の肯定評価44%(◎)</p>
<p>3 安全・安心な学校のための体制確立</p>	<p>(1) 校内教育相談体制の充実 (2) 積極的かつ効果的な広報活動の実施。 (3) 安心・安全な学校体制の確立 ア 学校保健委員会・安全衛生委員会の充実</p>	<p>ア・カウンセリングルームの開設時間の延長や学校カウンセラーの複数化の検討など校内のカウンセリング体制をより一層充実し、必要な生徒に適切な支援・指導を行うことができる体制を確立する。 ・警報等発令時に加え下校時刻の変更時の緊急メール配信の迅速化をはかる。 ・産業医(学校医)、社労士と連携する。</p>	<p>ア・学校評価アンケート「教育相談」の肯定評価を平成27年度には80%にする。 ・緊急メールの配信者を2人体制とし、相互確認を実施 ・学校保健委員会を年3回 安全衛生委員会を毎月実施</p>	<p>ア・学校評価アンケートの「教育相談」の肯定評価88%(○) ・次年度は校内カウンセラーの複数体制に移行する。 ・次年度は阪神電鉄社のミマルの加入率100%をめざす。 ・学校保健委員会は年1回(9月)のみ実施(△) 次年度はテーマを設定し、学期に1回実施する。 ・安全衛生委員会を毎月実施 ・学校評価アンケートの項目の検討 保護者・生徒・教員に対する共通のアンケートを記名式で記述項目を含めて実施</p>